

第1回教師みらいセミナーが開催されました！

令和8年度 第1回教師みらいセミナー

6月20日（土） 9:30~12:00 @錦本町ひなたキャンパス

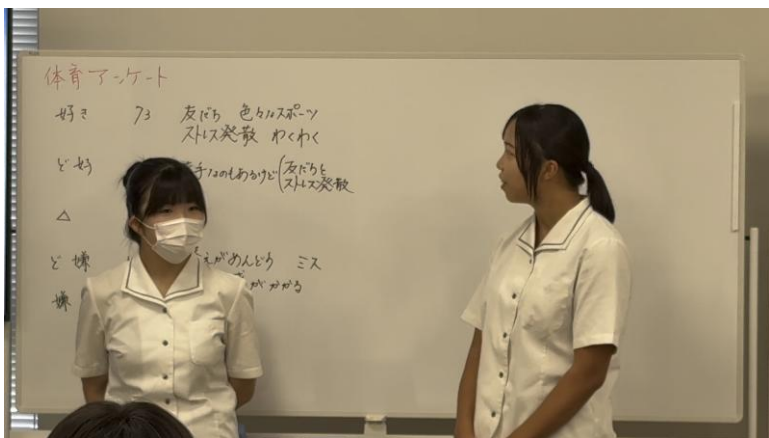
◎内容

「（保健）体育科の授業って、なぜあるの？」

・宮崎大学大学院教育学研究科 准教授 佐々 敬政

◎参加者数

会場参加 65名 オンライン参加 59名 計124名



今回のセミナーは「（保健）体育科で育まれる力とは」をテーマに行われました。まず、参加者自身の（保健）体育科に対するイメージを出し合うことからスタートしました。全体としては、（保健）体育科が好きと回答した人の割合が多く、理由として「達成感がある」「いろいろなスポーツに取り組める」「ストレス発散になる」などが挙げられました。一方で、「着替えが面倒」「周囲に迷惑をかけてしまうことが心配」という意見も見られました。

続いて、「（保健）体育科で育まれる力」について説明がありました。（保健）体育科の学習を通して育まれる力として、「できる（技能）」「楽しい、好きになる（情意）」「関わる（社会的行動）」「分かる（認識）」の4つの視点が示されました。中でも、他者と関わりながら学ぶことや、表情や身振りなどによるノンバーバルコミュニケーションが重要な役割を果たしていることが説明されました。また、自分の身体感覚を言葉で表現する「身体的思考」の重要性についても触れられました。

さらに、運動発達の特徴について学びました。スキヤモンの発育発達曲線をもとに、「ゴールデンエイジ」や「プレ・ゴールデンエイジ」について説明があり、小学校低学年の時期に多様な動きを経験することの重要性が紹介されました。また、逆上がりの指導を例に、子どもたちが「できそうだと感じられる工夫や、成功体験を積み重ねることの大切さについても話されました。

その後、「子どもたちが夢中になって取り組む『楽しい（保健）体育科授業』にするためにはどうすればよいか」をテーマにグループ協議を行いました。参加者からは、「ルールやコースを工夫する」「段階的な目標を設定する」「得意な子と苦手な子が教え合える場面をつくる」などの意見が出されました。

最後に、大学での（保健）体育科教育の学びや授業づくりの実践例が紹介されました。授業づくりや模擬授業、教材開発などを通して、教師としての専門性を高めていることが紹介されました。

まとめとして、科学技術の発達により身体を動かす機会が減少している現代だからこそ、（保健）体育科の果たす役割はますます大きくなっていると話されました。また、（保健）体育科は単に体力や運動技能を高める教科ではなく、身体を通して他者と関わり、自分自身を理解する教科でもあることが示されました。

参加者は、保健体育科の学習を通して育まれる多様な力について理解を深めるとともに、子どもの発達段階に応じた指導の在り方や、主体的に取り組む授業づくりの工夫について学ぶことができました。また、教師として子どもたちの学びをどのように支えていくかについて考える貴重な機会となりました。

受講者の感想より

- 今回の講義で印象に残ったことは、プレゴールデンエイジとゴールデンエイジについてです。小学校教諭を目指している私にとって、この2つのキーワードは特に重要なことだと思いました。私が教員になれば今日学ばせてもらった知識を活かし、子どもに楽しい授業を届けられる教員になりたいと思います。
- 話し合う中で思いつかなかった意見がたくさんあって勉強になりました。私は体育の授業がどちらかというと苦手な方でしたが、日々受けていた授業にたくさんの工夫やアイデアがあったのだと気づきました。私が教師になったら、達成感を得られる環境づくりを意識してたのしい授業をしたいと思いました。
- 体育科では身体能力の向上だけでなく、思考力やコミュニケーション能力を身につけることができることを改めて理解することが出来ました。小学校教師を目指すものとして体育の授業の大切さを知り、「できる」「楽しい」を感じてもらえる授業を作りたいと思いました。子供たちの感情を豊かにし、五感を使って世界を広げてあげられるすごい魅力のある教科だということがわかりました。貴重なお話ありがとうございました。

[教師みらいセミナーのページはこちら↓](#)

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/edu/community/post-1.html>